



学校教育目標

自分や相手を大切にし、
自ら考え行動する名瀬っ子

名瀬小だより

12月号

令和4年11月30日
横浜市立名瀬小学校
校長 中嶋 孝宏



強い思い

校長 中嶋 孝宏

今年もあと一ヶ月となりました。6年生は修学旅行を終え、仲間意識が高まり一段と頼もしくなりました。他の学年も毎日の授業や行事を通して成長しています。自分の思いをもつことは、自身や仲間の成長につながります。今月は思いを貫いたある企業の取組をご紹介します。

【奇跡の車いす「コギー」】

1人で立つことはできないくらい筋力が衰えている人が半信半疑で初体験すると、自分の足でこげる!先天性の病で足が不自由な人がこぐと、こげる!彼は自分の足が上がらないので車いすをそもそも信頼していないといていたが、びっくりした。感動した。感動体験につながる魔法の車イス。その名も「コギー」半身不随になった人のリハビリ用に開発された。その秘密は、人間が本来持っている能力の一つの「歩行反射」を利用している。例えば、生まれてまもない赤ちゃんも支えて立たせるとまだ歩けないのに歩行する。右足で踏んだ刺激が左足へ伝わる。脳からの刺激ではなく、反射力で身体に伝わる。この時、試乗会に参加した4人全員が自分の足でこぎ、喜びをあふれさせた。諦めかけていた状況が好転する瞬間だった。障害者だけでなく、足腰が弱った高齢者にも「コギー」は活躍する。歩けなくなりそうになる病の高齢者も「コギー」に乗り「私の愛車(コギー)は気持ちのままに動いてくれる。生きがいがあった!」と話す。

この感動の足こぎ体験を世の中に広めたいと語る「TESS代表 鈴木堅之氏」創業の2008年から普及にすべてを注ぎ込む。利益があまり出ていないが、困難な方や介護で頑張っている家族が少しでも思い描いたところに近づける仕事ができればいいと思って信念を貫く。売れない原因はコストにある。また、世の中になく物だから説明ができない。乗って体験してもらうのが一番。購入へのハードルは高い。なぜなら日本の医療は安全第一なので患者が動く危険なという。アメリカでは医療機器の認定を受けたが日本ではあくまでリハビリ用、理解されにくい。「足が動かない人の足が動く」というのは専門家になればなるほど信じられないと思われ、伝わりにくい。「コギー」を広めようとするのは世間の常識との戦い。医者にもう歩けないと宣告された人も、「コギー」でリハビリし1kmのマラソンを完走!!今の目標は10Kmですと意気込む。

コギーをきっかけにして「チャレンジしたい」という人がいるのでそれがモチベーションですし、私の場合、暮らしや人生そのものが「コギー」、と話す鈴木氏。乗る人も家族も笑顔に変える!希望を生む魔法の車いす。「これからも広めて人に希望をもってもらいたい」と話されていた。

自分の信じる道を、信念をもって取り組む姿に勇気をもらいました。何かを達成するために強い思いをもって取り組むことは必要だとあらためて実感しました。これからは子どもたちには「自分を信じ、思いをもっていろいろなことにチャレンジ」して行ってほしいと思っています。

今年も制限がある状況の中でも、子どもたちとともに歩めたのは地域や保護者のご理解ご協力のもと、温かいご支援のおかげです。本当にありがとうございます。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。皆様 寒い日が続いてまいります、ご自愛ください。

